

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2019 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020 年 4 月 17 日 提出

1. 研究課題名	
「目玉の松ちゃん・尾上松之助 活動写真デジタル資料館」の内容拡充 (英文課題名: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
松野 吉孝(まつの よしたか)	尾上松之助遺品保存会・代表
3. 研究分担者 (合計: 1名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
本地陽彦 (ほんち はるひこ)	国立映画アーカイブ 客員研究員

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>日本映画の草創期に「目玉の松ちゃん」の愛称で慕われ、1000本もの作品に主演した「日本映画初の大スター」で「時代劇俳優の先覚者」尾上松之助氏の「遺品・資料」のデジタル化・公開に取り組む。今年度で3年目。すでに「大入り袋入り・絵葉書プロマイド・40 作品:354 点」「忠臣蔵(大正 15 年 4 月公開)の映画写真・資料:253 点」を公開中にて、今年度はこれら「画像資料」に加え、松之助が着用した「鎧」、同郷の犬養毅から送られた「緞帳目録」、当時の「人気俳優大見立て」、「尾上松之助自叙伝」など、「実物資料」のデジタル化・公開を進め、これらの受け皿である「目玉の松ちゃん・尾上松之助 活動写真デジタル資料館」の内容拡充を図る。また、他の有力な松之助資料所蔵者を、このデジタル資料館に呼び込むため、「第三者向け契約関係書類の準備」にも努める。なお本年は「日本映画の父・牧野省三先生・簿没後 90 年」であることから、氏の功績を顕彰すべく本学創思館施設にて、おもちゃ映画ミュージアム太田米男先生と、氏の代表作・「雄呂血」(主演・阪東妻三郎)の上映、「京都ニュース」から「京都市民映画祭での牧野省三賞受賞風景」の披露等を準備中</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>① 公開総件数:2018 年度末 607 件→2019 年度末 2582 件 ・但し、各資料の説明付け作業、不十分にて今後地道に作業継続の所存。</p> <p>② 「画像資料」に加え、「実物資料」の公開開始 ・同郷の犬養毅から贈られた「緞帳目録」、関東大震災被災者への慰安劇に対する東京市長・永田秀次郎から贈られた「感謝状」、などの公開開始。但し、松之助が着用したと伝わる「鎧」のデジタル化は持越し。</p> <p>③ 保存会以外の方々の資料公開に係る事務の「手続き化」と「公開の実現」 ・所蔵者・管理者から「承諾書」を差し入れて頂く事務を「手続き化」し、またこれを汎用的に運営 ・多くの方々からご協力頂くこととなり、次の先の公開が実現へ i) 日本映画史研究家・本地陽彦先生・コレクション: 豆プロマイド、松之助絵葉書、めんこ、等 ii) 京都府文化スポーツ部: 昭和 52 年発行・京都府フィルムライブラリー・尾上松之助特集 iii) 京都市立北野中学校: 旧制京都二商同窓会誌(大正 15 年に松之助が建設資金の一部を寄付して建設された「お土居」を利用したプール建設記事が掲載されている) iv) 松之助故郷・岡山の個人: 松之助が伊勢二見ヶ浦で大正 14 年に大船を使ってロケを行った時の手紙</p> <p>④ 「日本映画の父牧野省三先生没後 90 年特別上映会」の開催: 6 月 30 日・創思館カンファレンスルームにて</p>

7. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

- (1) 著書: なし
- (2) 論文: なし
- (3) 研究発表等: なし
- (4) 主催したシンポジウム・研究会等: なし
- (5) その他研究活動(報道発表や講演会等)
 - ① 報道発表
 - ・2019年12月19日・「目玉の松ちゃん・尾上松之助 活動写真デジタル資料館」説明会
会場: 拙宅にて、参加者: 文化庁3名、京都府、京都市、東映太秦映画村、京都新聞、毎日新聞
産経新聞、日本経済新聞、山陽新聞(記事掲載・毎日、産経、山陽の3紙)
 - ② 講演会など
 - ・2019年4月6日・「都草・京の四方山ばなし」の講師: 「京の活動写真・目玉の松ちゃん 大活躍」
 - ・2020年1月11日・「都草・京の四方山ばなし」の講師: 「京の活動写真・目玉の松ちゃんの忠臣蔵」
- (6) 受賞学術賞: なし
- (7) 科学研究費助成事業: なし
- (8) 競争的資金等(科研費を除く): なし
- (9) その他